

社会福祉法人 桐生市社会福祉協議会

# 桐生みやま園 だより

<令和3年5月17日号（地域広報版）>



本園は設立からちょうど“40年”の節目を迎えました！

桐生市社会福祉協議会「桐生みやま園」はこんなところです。

<桐生みやま園の概要>

○ 昭和56年 社会福祉法人 桐生市社会福祉事業団として開設（授産施設として事業開始）

○ 設立の目的は、心身の障害等を抱え、企業等への就労が困難な方々が利用できる施設

現在は授産施設ではなく「障害者総合支援法」に則り、生活介護・入所支援・共同生活援助・就労支援など、利用者のニーズに沿ったサービスを提供する施設事業所となっています。

○ 様々な利用者さんたちがいますが、

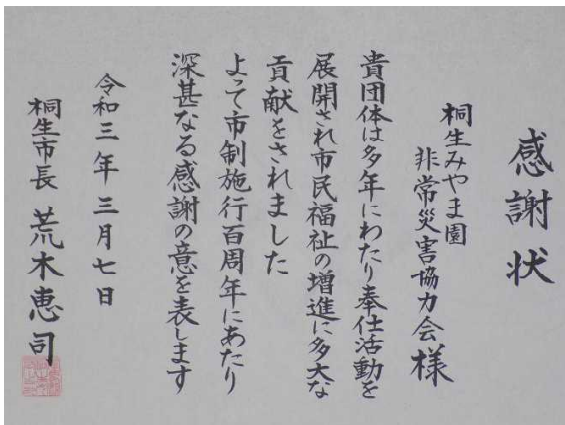
- ①毎日家庭から施設（しごと工房を含）へ通う人、
- ②入所により園を生活基盤として、施設内にて生活や作業の支援を受ける人、
- ③短期入所として、一時的に施設を利用し支援を受ける人、
- ④園外のグループホームに居住しながら、本施設に通ったり職場に通ったりして支援を受ける人、

など、個人の障害の程度や家庭の事情などに応じてサービスを利用しています。桐生みやま園では、心身の障害等を抱える利用者が日々を過ごす空間として、そのニーズの多様化・複雑化に応えられるように全職員、力を合わせながら日々努めています。

**地域とのかかわりを大切に**・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

当然のことながら、園施設のある地域＝川内町に住んでいらっしゃる方々とのかかわりはとても大切と捉え、積極的に交流の場を設けながらご理解とご支援を頂戴したいと考えています。残念ながら、現在はコロナ禍という状況の中、思うようにかかわりの場を設定できないのがとても寂しく感じています。なかなか難しいとは思いますが、リスクを避けながら可能な形で行事が実施できた際には、ぜひ温かく手を差し伸べていただければ幸いです。

「桐生みやま園非常災害協力会」様に、桐生市長から感謝状が送られました。



昭和56年に桐生みやま園が開設されてからすぐに、地元の川内5丁目の第一町会と第二町会のご有志の方々により「桐生みやま園非常災害協力会」が組織されました。これまで毎年行われてきた総合災害訓練や園の諸行事にも様々ご協力いただいております。（昨年はコロナ禍のため協力会の参加はなし）

こうした長年の奉仕活動・貢献が桐生市からも多大の評価をいただき感謝状をいただいたことをご報告させていただきます。

## みやま園利用者さんたちの作品が市民文化会館に並びました。

4/16～18の間、「第41回“グループ・アイ”絵画展」にみやま園利用者さんたちの作品が並びました。「グループ・アイ」さんのご厚意によるものです。4/17（土）の桐生タイムスにも掲載されましたが、みやま園の利用者さんたちの作品が会場に入ってすぐのスペースに並びました。地域や市民の皆様との接点をつくるのが難しいみやま園利用者さんたち、そのご家族にとっては、どんな形であっても多くの方々とのつながりが増えることはこの上ない喜びです。このような機会は次の活動にも、そして日々の生活にも大いにつながっていくものです。



作品発表の場をいただいたことに加え、「グループ・アイ」の会員さんの中に、時々みやま園に見えて作品制作の方向性や助言を与えてくださる方がおられ、本当にありがたいことと感謝しております。できることなら今後も末永くかかわらせていただければと願っております。

## 桜木婦人会様より、たくさんの物品をご寄付いただきました。

桐生みやま園には、時々、市内の団体様、個人様より様々なものをご寄付いただくことがあります。ご想像の通り、利用者さんたちは一般の方々よりも、タオルや衣料品などを大量に使用します。園内での日常生活の中、すぐに汚れたり破れたりしてしまい、どれだけあっても足りないくらいです。汚れ物がたくさん出るので洗剤も大量に使用します。

4/30（金）に桜木婦人会の皆様方がご来園くださり、タオル、洗剤、台所用品、衣料品などをたくさん寄付してくださいました。桜木婦人会の皆様方からとびっきりの笑顔で励ましの言葉をいただくとともに、たくさんの物品を頂戴し、感謝の気持ちでいっぱいです。

この場をかりて改めてお礼申し上げます。有難うございました。



<桜木婦人会の皆様方とみやま園の玄関にて>

### 【園長自己紹介…この4月に就任しました 坪田 欣弥 と申します。】

川内にはこれまでもご縁があり、地域の大勢の方々にお世話になってきました。職種や立場は変わりましたが、引き続き地域の方々と積極的にかかわって参りたいと思いますので何卒よろしくお願ひ申し上げます。

